

平成 19 年 5 月 7 日

各 位

軟弱地盤研究会（第 41 回）のご案内

会長 三浦哲彦

日 時：平成 19 年 5 月 25 日（金） 14 時～16 時

場 所：建設業協会佐賀、2 階会議室

佐賀市兵庫南 2-13-15 電話 0952-24-2711

話 題：『コラムシステム工法の設計の考え方』

講演者：フローティング基礎研究会 吉田 茂 氏（㈱テクノックス）

概 要：フローティング基礎研究会からの報告として、第 7 回軟弱地盤研究会（2003.7）ではコラムアプローチ工法、第 30 回（2006.2）ではコラムスラブ工法が紹介されました。今回はコラムシステム工法マニュアルが完成したのを機に、同工法について紹介していただきます。

軟弱地盤上道路にボックスカルバート等の道路横断構造物を建設する際は、従来は構造物基礎工、仮土留工（鋼矢板）、掘削工、構造物の構築、埋め戻し工、鋼矢板の撤去、舗装工の工程を踏むことになります。コラムシステム工法は、構造物基礎工と仮土留工に深層混合処理工法を適用し道路段差緩和のためにコラムアプローチ工法を適用するものです。

コラムシステム工法の構造物基礎工はコラムを支持層に着底させる先端支持形式とフローティング形式を選択することができます。仮土留工はコラムを互いにオーバーラップさせることによりコラムをブロック状に形成し、自立式の土留工とするものです。切梁がない自立式土留工であることから自由な作業空間を確保でき、また土留工を階段状に形成するため作業員の安心感が得られます。

コラム土留工は工事完了後も残置させるため、鋼矢板を撤去したときのように構造物周辺の地盤に変状を招くことはありません。掘削底面部では基礎工とは異なる短尺のコラムを壁状に配置して先行地中梁として機能させます。また、土留工中のコラムから始まるコラムアプローチ工を施して段差緩和を図り、道路供用後の維持補修費の低減を可能としています。

コラムシステム工法は土留工や基礎工にコラムという同一工種を適用し、さらにコラムアプローチ工法を適用することにより、新規道路横断構造物建設時の工期短縮や安全性の向上のみならずライフサイクル的コストの縮減を期待するものです。

本工法の問題点を含めて、忌憚のない意見交換ができれば幸いです。

※参加希望の方は必ず事前にメール、または FAX でご連絡ください。

当日の申し込みは出来るだけご遠慮下さい。

※参加費：当研究会の個人会員および特別会員は参加費無料。

それ以外の方は資料代（¥500）。

研究会担当：喜連川 聰容（Kirekawa Toshihiro）

E-mail: jimukyoku@sunny.ocn.ne.jp

Tel:0952-41-8840/Fax:0952-41-8373

Address:〒840-0811 佐賀市大財 4 丁目 1 番 52 号

軟弱地盤研究会事務局